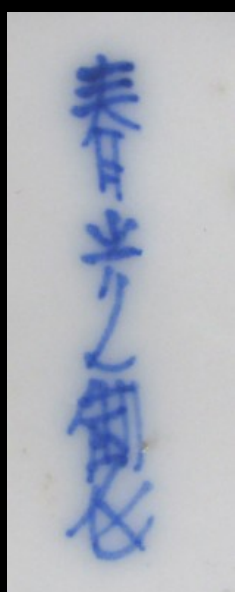


明治・瀬戸焼の名窯・作家

～ 千年以上の歴史をもつ繊細な陶磁器 ～

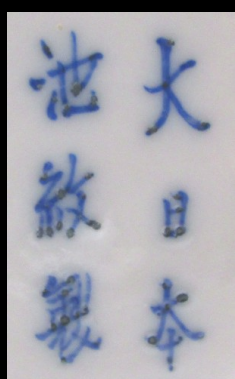
加藤春光 [初代：生没年不詳、2代：1881-1958年]



1875年に瀬戸・南新谷で創業した名窯で、瀬戸最大手の白生地工場でした。1882年には森村組と取引を開始し専属契約を結び、西郷や井口などの森村組専属工場への生地の供給をしていました。そのため、森村組の初期の作品の中には春光製の生地のものが少なくありません。また、自ら春光という染付け銘を持ち、内国勸業博覧会等で数々の賞を受賞しています。

2代目は英語をはじめとして数か国語に通じていたと言われ、博学多識で西洋文献などを研究して、鑄込成形法を日本陶器に先立って瀬戸にもたらし、多くの製法特許を取得し窯業技術の改良に大きな貢献と足跡を残した人物です。

加藤紋右衛門 [6代：1853-1911年]



江戸時代から続く瀬戸の名窯【還情園、池紋と号す】。1893年に森村組と専属契約を締結、1896年に愛磁合資会社を設立し、1904年には日本初の和風水洗便器を製造し、陶器商報の中で大日本陶業百選に選出された近代瀬戸を代表する名工です。

< 海外万博の主な受賞歴 >

1878年：パリ万博

< 国内の主な受賞歴 >

1877年：第1回内国勸業博覧会

1890年：第3回内国勸業博覧会

1895年：第4回内国勸業博覧会